

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

昨日（8日）19時44分頃から23時09分頃にかけて62-2火口付近で微弱な火映を観測しました。
この現象は、高温のガス噴出や硫黄の燃焼等によるものと考えられます。
火口周辺は火山ガスの濃度が高くなっている可能性がありますので注意してください。
＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

○今回の活動概況

昨日（8日）19時44分頃から23時09分頃にかけて、山麓に設置している監視カメラにより、62-2火口付近で微弱な火映を観測しました。その後の状況は雲のため不明です。この現象は、62-2火口内での高温のガス噴出や硫黄の燃焼等によるものと考えられます。十勝岳では、2020年6月にも同程度の微弱な火映が観測されています。今年に入ってから3月13日から14日にかけてと今月7日にも火映が観測されています。

今回の現象の前後で、火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、地殻変動にも特段の変化は認められません。また、火映が観測された62-2火口やその他の火口の状態にも特段の変化は見られていません。

なお、火口周辺では火山ガスの濃度が高くなっている可能性がありますので、注意してください。

○活動評価

十勝岳では、2006年から2017年秋頃にかけて山体浅部が膨張し、その状態が現在も維持されています。火山性地震の一時的な増加、火山性微動や火山性地震と同期した傾斜変動は時折観測されており、振子沢噴気孔群や62-2火口では地熱域の拡大や高温の状態が確認されています。火山活動の活発化を示唆する現象が観測されていますので、今後の活動推移には注意が必要です。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、北海道大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』を使用しています。



図1 十勝岳 62-2 火口で観測された火映及び監視カメラ位置図と撮影方向

(開)：国土交通省北海道開発局

①・③・⑤：白金模範牧場 (図1-aより撮影)

②・④：望岳台 (北海道開発局) (図1-bより撮影)